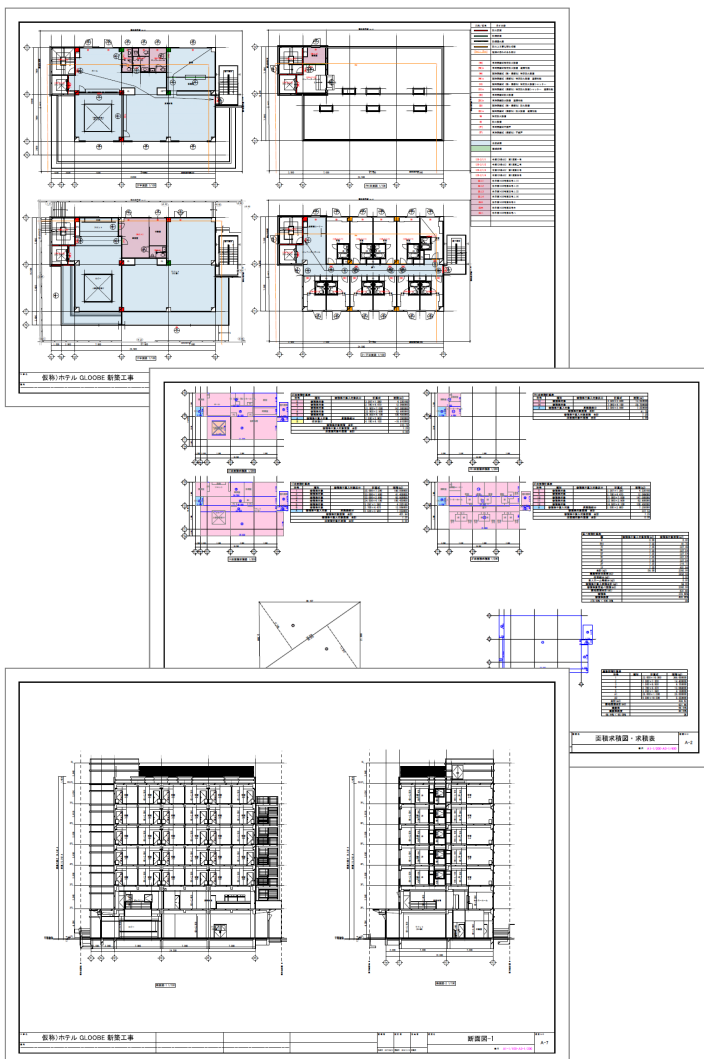


導入マニュアル

確認申請図解説



はじめに _____ 2

1 平面図 _____ 3

1-1 部材のプロパティ設定 _____ 3

1-2 凡例表付き用紙枠の配置 _____ 8

1-3 平面図の配置 _____ 9

2 床面積求積図 _____ 10

2-1 申請面積の入力 _____ 10

2-2 床面積求積図・表の配置 _____ 12

3 断面図 _____ 14

3-1 地盤面の算定 _____ 14

3-2 階数・高さ確認 _____ 15

3-3 断面図の配置 _____ 16

はじめに

このガイドでは、次図のような確認申請用の図面を作成するポイントを紹介します。

1-1 部材のプロパティ設定

1-2 凡例表付き用紙枠の配置

凡例/記号	示す内容
—	防火区画
—	防煙区画
⋯⋯⋯	防煙垂れ壁
—	防火上主要な間仕切壁
(3m)・(5m)	延焼の恐れのある部分
[特]	常時閉鎖式特定防火設備
[特]s	常時閉鎖式特定防火設備 遮煙性能
(特)	随時閉鎖式(熱・煙感知)特定防火設備
(特)s	随時閉鎖式(煙感知)特定防火設備 遮煙性能
(SS)	随時閉鎖式(熱・煙感知)特定防火設備シャッター
(SS)s	随時閉鎖式(煙感知)特定防火設備シャッター 遮煙性能
[防]	常時閉鎖式防火設備

1-3 平面図の配置

【平面図】

2-1 申請面積の入力

区分	種別	申請不許可対象区分	計算式	面積(m ²)
0	留床部分	0	1,300 × 1,700	2,210.000
0	留床部分	0	7,700 × 4,470	33,999.000
0	留床部分	0	71,500 × 1,000	71,500.000
0	留床部分	0	22,000 × 2,900	63,800.000
0	留床部分	0	24,500 × 1,900	46,550.000
A	留床部分(不許可)	1	2,500 × 1,800	4,500.000
B	留床部分(不許可)	1	14,100 × 4,100	58,010.000
留床部分面積(合計)				319,720
申請不許可対象面積(合計)				62,520
申請面積(最終面積)				257,200

2-2 床面積求積図・表の配置

【面積求積図・表】

3-1 階数・高さ確認

階数	高さ(m)
1F	3,000
2F	3,000
3F	3,000
4F	3,000
5F	3,000
6F	3,000
7F	3,000
8F	3,000
9F	3,000
10F	3,000
11F	3,000
12F	3,000
13F	3,000
14F	3,000
15F	3,000
16F	3,000
17F	3,000
18F	3,000
19F	3,000
20F	3,000
21F	3,000
22F	3,000
23F	3,000
24F	3,000
25F	3,000
26F	3,000
27F	3,000
28F	3,000
29F	3,000
30F	3,000
31F	3,000
32F	3,000
33F	3,000
34F	3,000
35F	3,000
36F	3,000
37F	3,000
38F	3,000
39F	3,000
40F	3,000
41F	3,000
42F	3,000
43F	3,000
44F	3,000
45F	3,000
46F	3,000
47F	3,000
48F	3,000
49F	3,000
50F	3,000
51F	3,000
52F	3,000
53F	3,000
54F	3,000
55F	3,000
56F	3,000
57F	3,000
58F	3,000
59F	3,000
60F	3,000
61F	3,000
62F	3,000
63F	3,000
64F	3,000
65F	3,000
66F	3,000
67F	3,000
68F	3,000
69F	3,000
70F	3,000
71F	3,000
72F	3,000
73F	3,000
74F	3,000
75F	3,000
76F	3,000
77F	3,000
78F	3,000
79F	3,000
80F	3,000
81F	3,000
82F	3,000
83F	3,000
84F	3,000
85F	3,000
86F	3,000
87F	3,000
88F	3,000
89F	3,000
90F	3,000
91F	3,000
92F	3,000
93F	3,000
94F	3,000
95F	3,000
96F	3,000
97F	3,000
98F	3,000
99F	3,000
100F	3,000

3-2 階数・高さ確認

3-3 断面図の配置

3-1 地盤面の算定

【断面図】

1 平面図

ここでは、凡例に沿った確認申請用の平面図を作成する操作を解説します。

1-1 部材のプロパティ設定

「凡例」の機能を使用すると、部材のプロパティが色分け表示され、正しく設定されているか確認が容易になります。凡例から部材のプロパティを割り当てることもできます。ここでは、凡例の使い方とプロパティの設定手順について解説します。

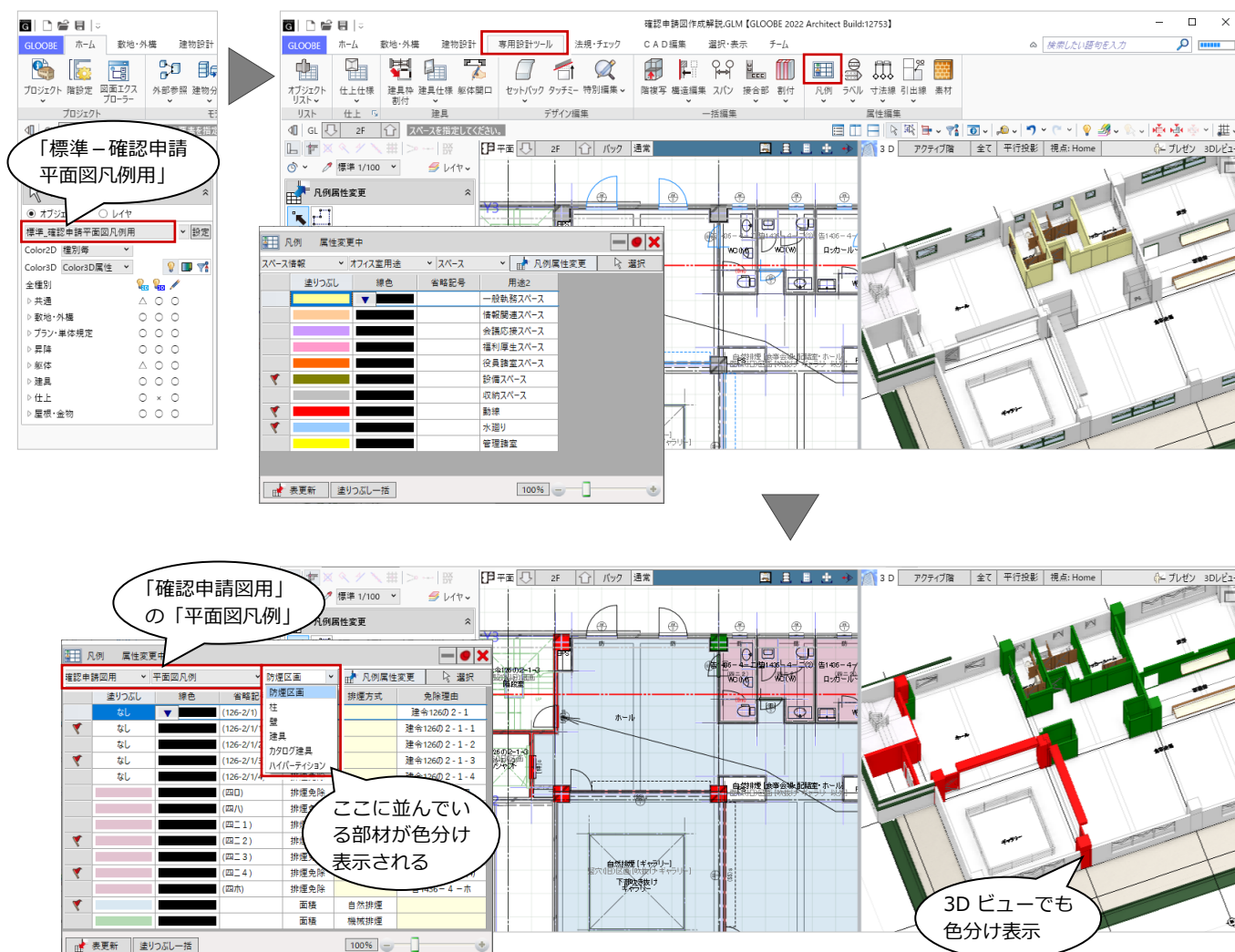
凡例からプロパティを確認する

表示を設定する

凡例を使って確認申請用の平面図を作成するときは、表示設定を「標準－確認申請平面図凡例用」に切り替えましょう。この設定を使用することで、確認申請図用の凡例で表示した際に、モデルの状態が確認しやすくなります。

凡例を参照した表示に切り替える

「専用設計ツール」タブの「凡例」をクリックして、テンプレートから「確認申請図用」の「平面図凡例」を選ぶと、部材のプロパティを参照して、凡例に設定されている内容で部材が色分け表示されます。



1 平面図

凡例とプロパティの関係

「塗りつぶし」～「省略記号」が図面表示の設定、それより右の項目が部材のプロパティになります。

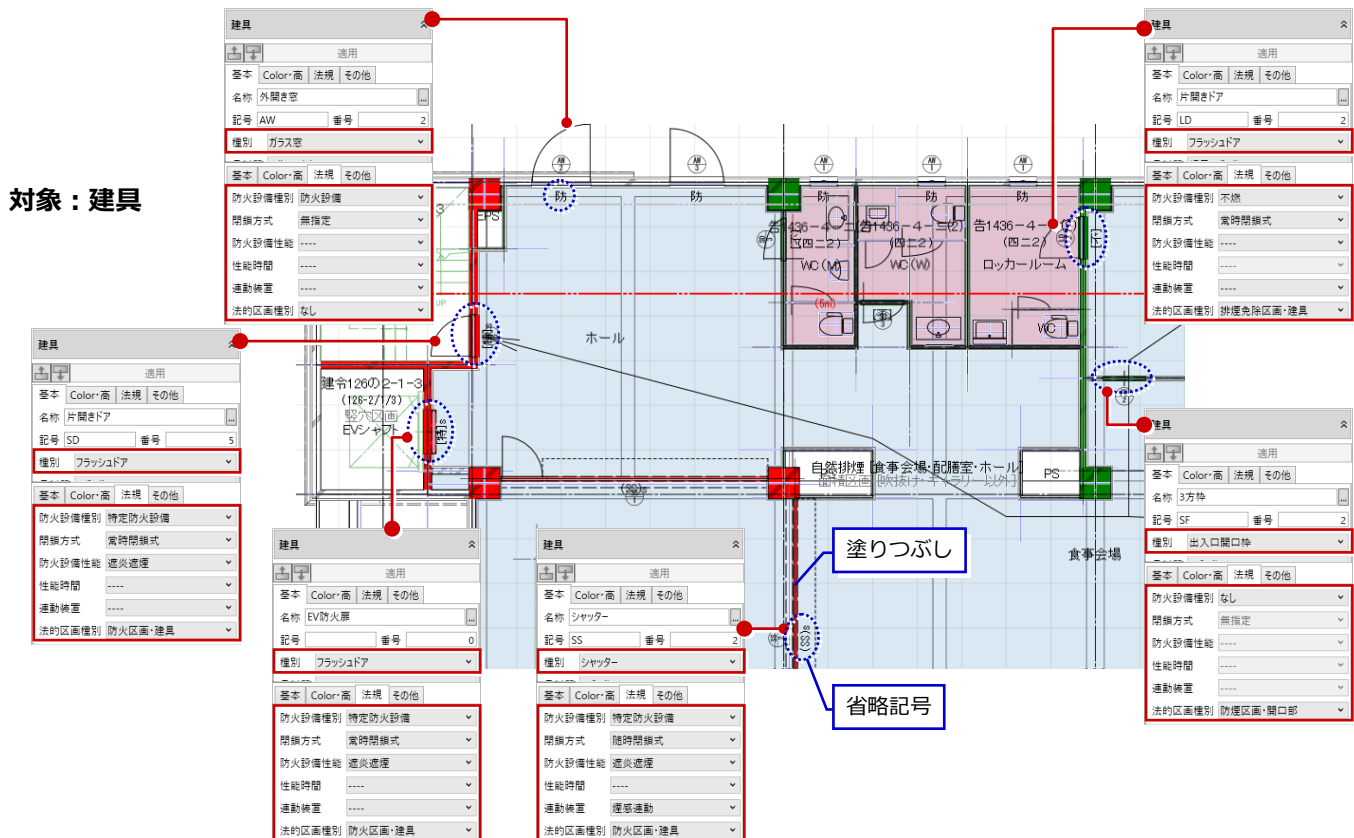
該当するプロパティの部材が存在するときは、旗マークが付きます。

部材のプロパティを参照して、塗りつぶしや省略記号が表示されます。「凡例」を終了すると、元の表示に戻ります。

対象：防煙区画

対象：柱、壁

対象：建具



凡例

確認申請用 平面図凡例

塗りつぶし	特色	省略記号	種別	防火設備種別	開鎖方式	防火設備性能	運動装置	法的区分種別
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラスドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラスドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	防火区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	防火区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラスドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	防火区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	防火区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎遮煙	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎遮煙	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	出窓	防火設備	無指定	---	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	不燃	常時閉鎖式	---	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	不燃	常時閉鎖式	---	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラスドア	不燃	常時閉鎖式	---	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュドア	不燃	常時閉鎖式	---	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	不燃	常時閉鎖式	---	煙感運動	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	不燃	常時閉鎖式	---	煙感運動	排煙免除区分画・建具

対象：カタログ建具

凡例

確認申請用 平面図凡例

塗りつぶし	特色	省略記号	種別	防火設備種別	開鎖方式	防火設備性能	運動装置	法的区分種別
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラスドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラスドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	防火区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	防火区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラスドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	防火区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュドア	特定防火設備	常時閉鎖式	遮炎	---	防火区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	不燃	常時閉鎖式	---	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス	不燃	常時閉鎖式	---	---	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	ガラス戸	不燃	常時閉鎖式	---	煙感運動	排煙免除区分画・建具
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	フラッシュ戸	不燃	常時閉鎖式	---	煙感運動	排煙免除区分画・建具

対象：ハイパーパーティション

凡例

確認申請用 平面図凡例

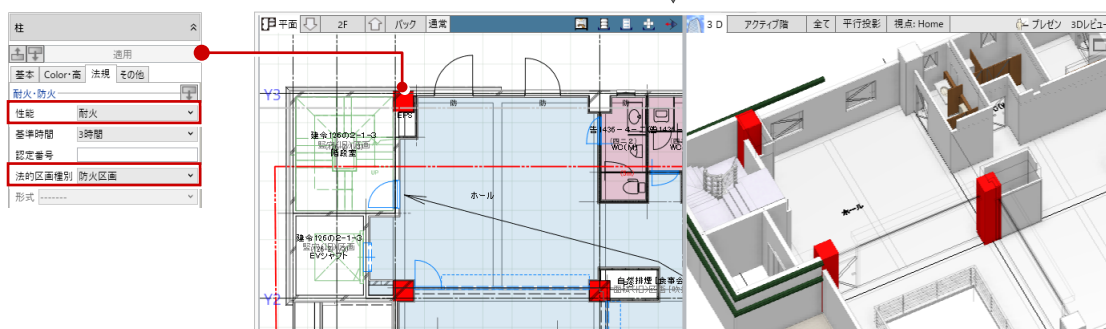
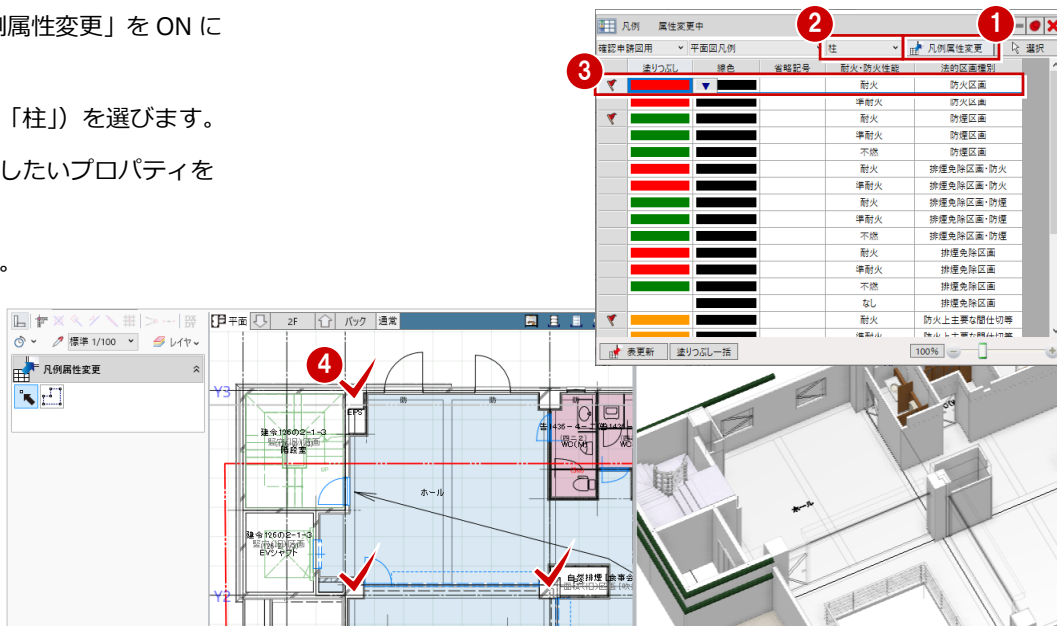
塗りつぶし	特色	省略記号	法的種別	法的区分種別
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	耐火	防火区分画
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	不燃	防護区分画
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	耐火	排煙免除区分画・防火
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	不燃	排煙免除区分画・防護
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	なし	排煙免除区分画
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	耐火	防火上主要な居住切等
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	耐火	その他居住切等
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	不燃	その他居住切等
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	準不燃	その他居住切等
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	難燃	その他居住切等
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	なし	その他居住切等
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	耐火	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	不燃	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	準不燃	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	難燃	なし
[塗りつぶし]	[特色]	[省略記号]	なし	なし

凡例からプロパティを変更する

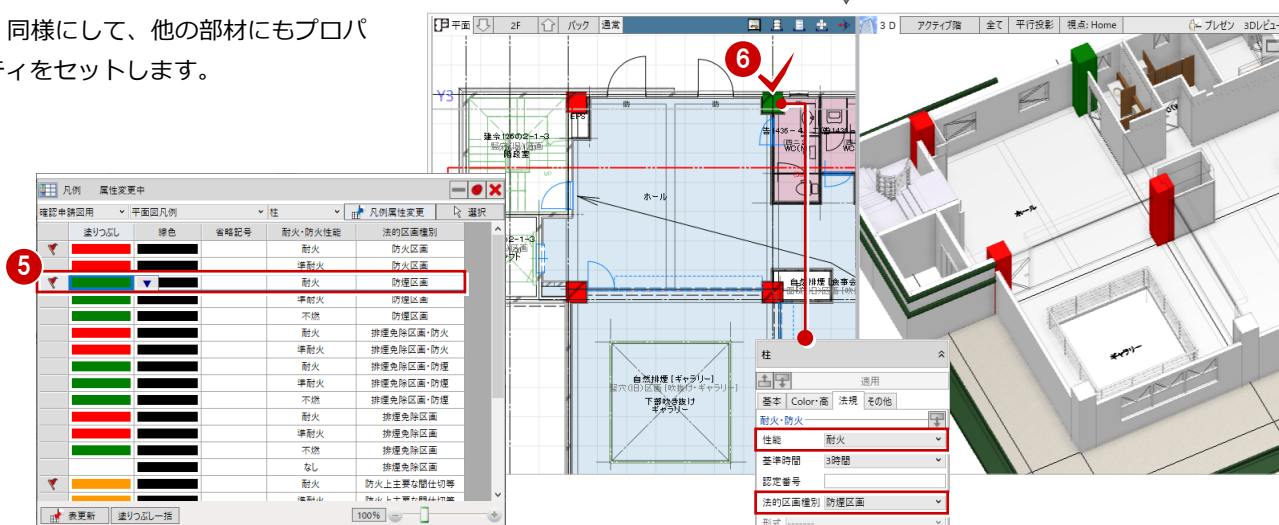
部材のプロパティが正しく設定されていないと、塗りつぶしや省略記号が表示されません。

この場合は、凡例から部材のプロパティを変更することができます。

- ① 「凡例」パネルの「凡例属性変更」を ON にします。
- ② 対象の部材（ここでは「柱」）を選びます。
- ③ 凡例の一覧から、設定したいプロパティを選びます。
- ④ 部材をクリックします。



- ⑤⑥ 同様にして、他の部材にもプロパティをセットします。

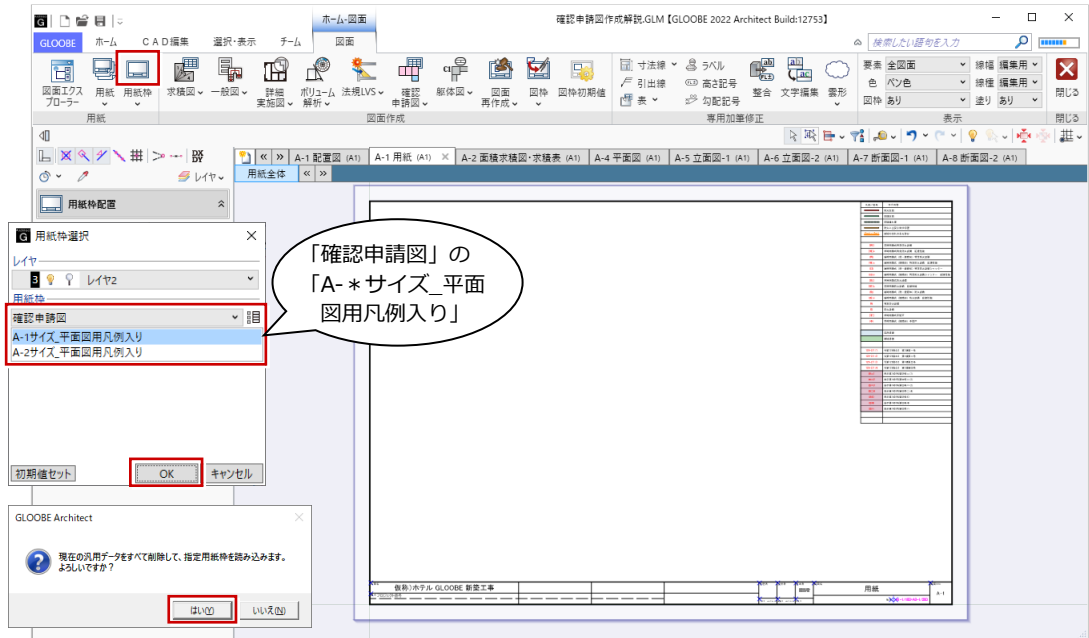


1-2 凡例表付き用紙枠の配置

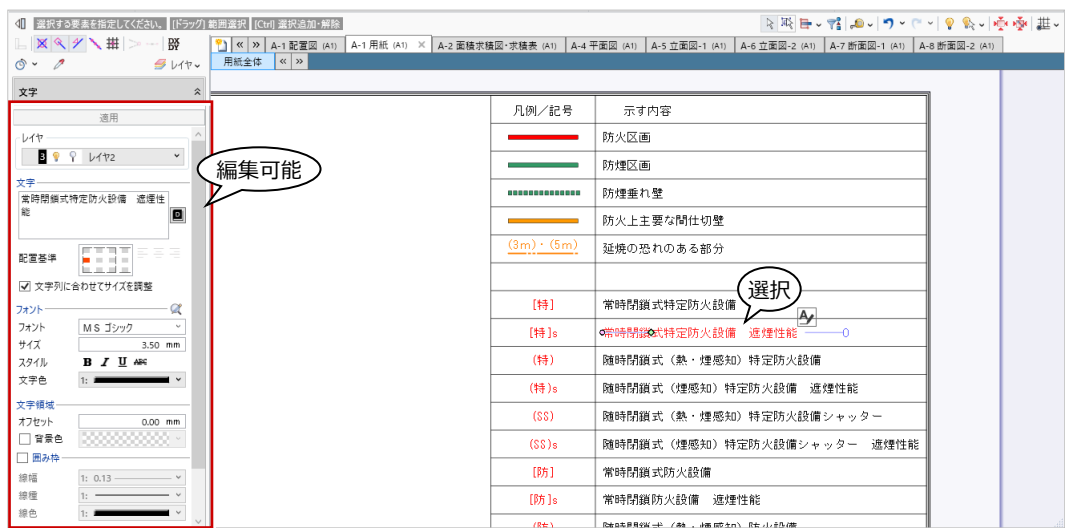
図面・GLOOBE シートの「用紙枠配置」で、テンプレートから「確認申請図」の「A-*サイズ_平面図用凡例入り」を選ぶと、右側に凡例表がレイアウトされた用紙枠を配置できます。

凡例表を編集するときは、文字列や塗りつぶしを選択して、プロパティを変更してください。

【用紙枠の配置】



【凡例表の編集】



1-3 平面図の配置

確認申請用の平面図を作図するときは、「確認申請図」メニューの「平面図」を使用します。

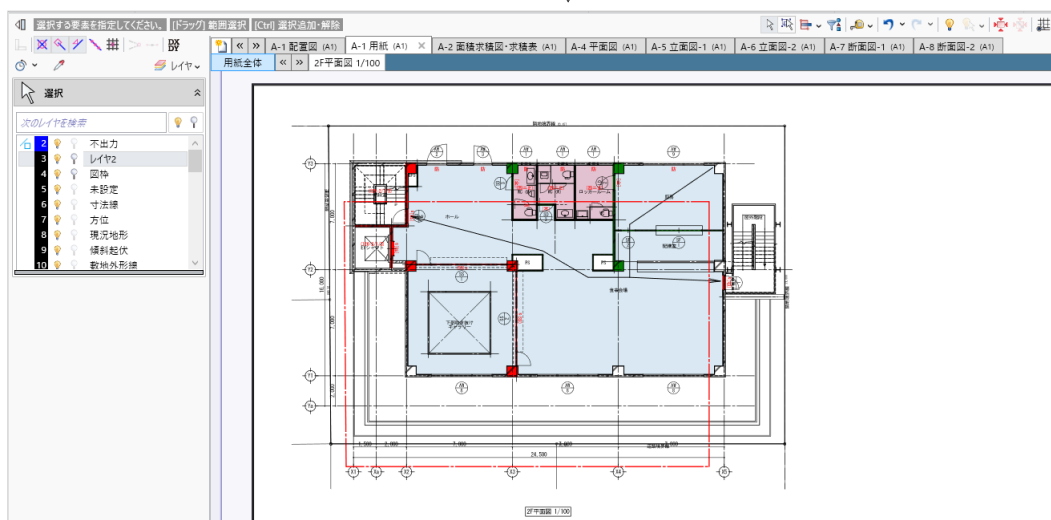
作図表現（凡例）で「凡例を使用する」をONにして「確認申請図用」の「平面図凡例」に設定しておくことで、部材の塗りつぶしと省略記号をモデルと同じ表現で作図できます。

「01_確認申請図」の「・・・平面図（凡例使用・・・）」と記載されているテンプレートは、この設定になっています。

「凡例使用」のテンプレート

「凡例を使用する」ON
「確認申請図用」の「平面図凡例」

分類	塗りつぶし	線色	省略記号	種別	排遣方式	免除理由
階レベル	なし	黒	(126-2/1)	排遣免除		建令126の2-1
	なし	黒	(126-2/1/1)	排遣免除		建令126の2-1-1
	なし	黒	(126-2/1/2)	排遣免除		建令126の2-1-2
	なし	黒	(126-2/1/3)	排遣免除		建令126の2-1-3
専用加算	なし	黒	(126-2/1/4)	排遣免除		建令126の2-1-4
	なし	黒	(四〇)	排遣免除		告1436-4-0
	なし	黒	(四一)	排遣免除		告1436-4-一
	なし	黒	(四二)	排遣免除		告1436-4-二(一)
塗りつぶし	なし	黒	(四三)	排遣免除		告1436-4-二(二)
	なし	黒	(四四)	排遣免除		告1436-4-二(三)
	なし	黒	(四五)	排遣免除		告1436-4-二(四)
	なし	黒	(四六)	排遣免除		告1436-4-二(五)
文字その他	なし	黒	(四七)	排遣免除		告1436-4-二(六)
	なし	黒	(四八)	排遣免除		告1436-4-二(七)
文字	なし	黒	(四九)	排遣免除		告1436-4-二(八)
	なし	黒	(五〇)	排遣免除		告1436-4-二(九)
マーク他	なし	黒	(五一)	排遣免除		告1436-4-二(一〇)
	なし	黒	(五二)	排遣免除		告1436-4-二(一一)



2 床面積求積図

ここでは、区画の種別ごとに色分けした床面積求積図・計算表を作成する操作を解説します。

2-1 申請面積の入力

「法規・チェック」タブの「申請面積」をクリックすると、建築面積・床面積区画を入力して、容積率、建蔽率、建物高さなどを確認する「申請面積」タブが開きます。

申請に必要な面積に関わる情報を、モデル構築段階でまとめて入力・編集することができます。

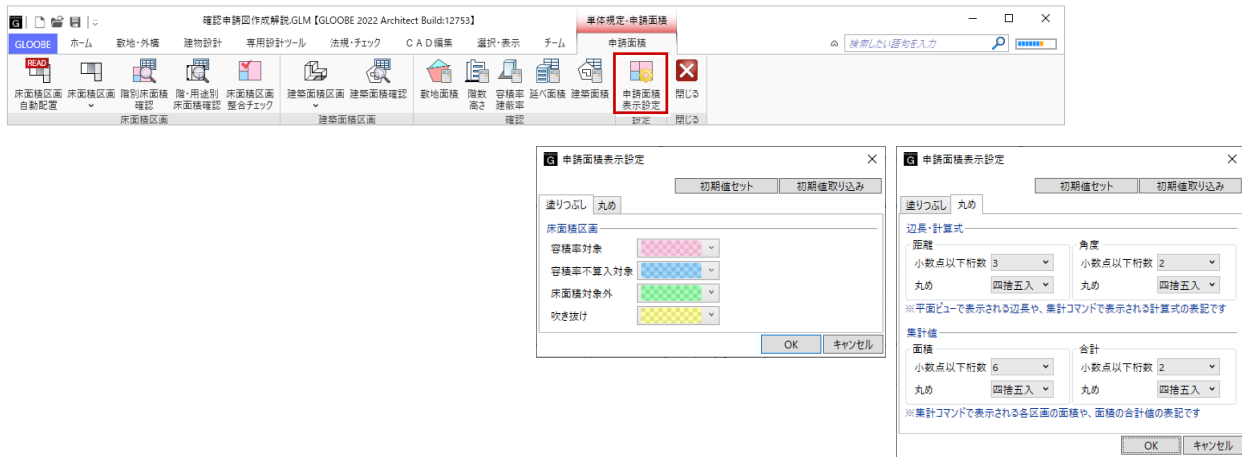
⇒ 各コマンドの操作方法は、ヘルプを参照してください。

項目	値	単位
建築面積	438.63	m ²
敷地面積	631.66	m ²
容積率	69.44	%
建蔽率	80.00	%
容積率判定	378.69 < 400.00	OK
建蔽率判定	69.44 < 80.00	OK

塗りつぶしや丸めを設定する

「申請面積」タブの「申請面積表示設定」で、床面積区画の塗りつぶしや距離・面積などの丸め方法を変更できます。

この設定は、図面・GLOOBEシートで「確認申請図」メニューの床面積求積図・階別床面積計算表を配置するときにも使用されます。

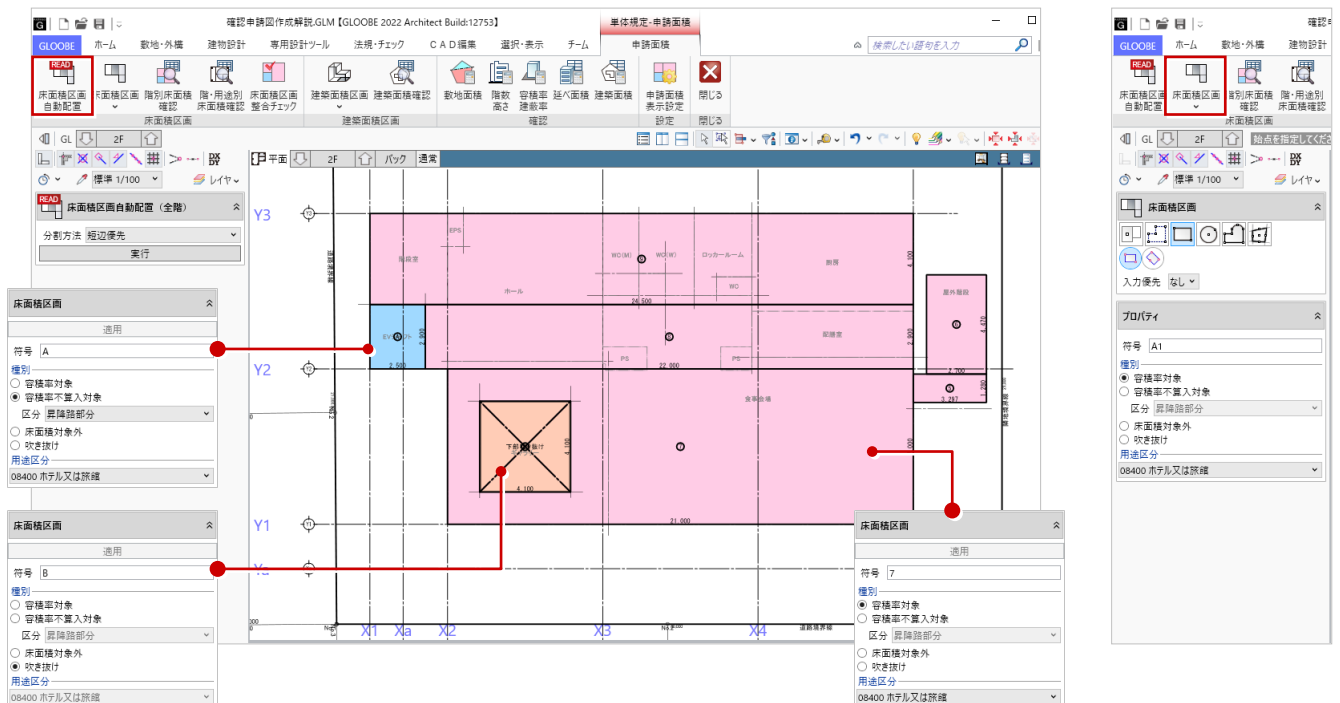


床面積区画を入力する

「申請面積」タブの「床面積区画自動配置」を使用すると、スペースのプロパティ「法規」タブ および「用途区分設定」の階ごとの用途区分の情報を参照して、全階の床面積区画を自動作成できます。

個別に入力する場合は、「床面積区画」コマンドで「種別」および「用途区分」を選んで入力します。

床面積区画は、「申請面積表示設定」を参照して種別ごとに色分け表示されます。



加算区画	容積率対象	容積率・床面積対象とする区画を入力します。
	容積率不算入対象	床面積のみ対象とする区画を入力します。 ※ EVシャフト、共同住宅の共用廊下など
	床面積対象外	容積率・床面積対象外とする区画を入力します（施工床面積）。 ※ バルコニーやポーチなど
減算区画	吹き抜け	吹き抜けの区画を入力します。

2-2 床面積求積図・表の配置

床面積求積図を配置する

床面積求積図の配置コマンドは「求積図」メニューにもありますが、「確認申請図」メニューの「床面積求積図」を使用すると、床面積区画の塗りつぶしや通り芯間寸法の自動描画、スペース線の作図も可能です。

作図表現（床面積区画）で「申請面積タブの表示設定を使う」をONにすると、「申請面積表示設定」で設定した色分けや丸めが参照されます。「01_求積図」の「・・・(塗り有り・・・)」と記載されているテンプレートは、この設定になっています。

「塗りが有り」のテンプレート

スペース線も作図可能

床面積区画を色分け

通り芯間寸法を作図可能

「求積図」メニューの「床面積求積図」

「確認申請図」メニューの「床面積求積図」

床面積計算表を配置する

「確認申請図」メニューの「階別床面積計算表」を使用すると、床面積区画の種別ごとにセルを色分けできます。作成階を複数指定して連続作図することもできます。

The screenshot shows the GLOOBE 2022 Architect Build interface. The main window displays a floor plan with various colored zones. A dialog box titled '階別床面積計算表' (Floor Area Calculation Table) is open, showing configuration options. Callouts highlight specific features: '連続作図が可能' (Continuous drawing possible), '申請面積表示設定の「丸め」タブと連動' (Linked to the 'Rounding' tab of the application area display settings), '作図する項目を設定可能' (Possible to set items to be drawn), and 'セルを色分け' (Coloring cells).

階別床面積計算表 (2F) 表

行号	種別	容積率不記入対象区分	計算式	面積(m ²)
5	容積率対象		3.287 × 1.280	4.220180
6	容積率対象		2.700 × 4.470	12.088000
7	容積率対象		21.000 × 7.800	163.800000
8	容積率対象		22.000 × 2.900	63.800000
9	容積率対象		24.500 × 4.100	100.450000
A	容積率不記入対象	昇降路部分	2.500 × 2.900	7.250000
B	吹き抜け		4.100 × 4.100	-18.810000
容積率対象面積 合計				310.75
容積率不記入対象面積 合計				7.25
床面積対象外面積 合計				0.00

階別床面積計算表 (1F) 表

行号	種別	容積率不記入対象区分	計算式	面積(m ²)
1	容積率対象		25.000 × 7.200	180.000000
2	容積率対象		28.000 × 1.800	50.400000
3	容積率対象		22.000 × 2.900	63.800000
4	容積率対象		24.500 × 4.100	100.450000
E	容積率対象		4.000 × 1.000	4.000000

3 断面図

ここでは、地盤面から「塔屋部分を除外した建物の最高の高さ」と「軒高」の寸法線が作図された断面図を作成する操作を解説します。

3-1 地盤面の算定

地盤面の高さを算定するには、「法規・チェック」タブの「ポリウム解析」をクリックして、「地盤計算」タブのコマンドを使用します。「モデル読み込み（地盤算定用）」または「地盤算定用建物」で建物の外周上の点と地盤が接する高さを設定し、「地盤算定」で平均地盤高を算出すると、その結果が「敷地境界・地盤」のプロパティにセットされます。

The screenshot illustrates the workflow for calculating the ground level in GLOBE software. It is divided into three main stages:

- Initial Setup:** The user navigates to the '法規・チェック' (Regulation/Check) tab and selects 'ポリウム解析' (Polyum Analysis). The '地盤計算' (Ground Calculation) tab is then active, showing a table of calculation points.
- Calculation Process:** The user sets the calculation points for the building's footprint. A dialog box titled '地盤算定' (Ground Calculation) displays the calculated '平均地盤高' (Average Ground Level) as -0.4924 m.
- Final Result:** The calculated average ground level is applied to the '敷地境界・地盤' (Site Boundary/Ground) property panel, where it is set to -0.49 m.

頂点	名称	高さ(mm)
1		-320.00
2		-320.00
3		-320.00
4		-320.00
5		-650.00
6		-650.00
7		-650.00
8		-650.00
9		-650.00
10		-650.00

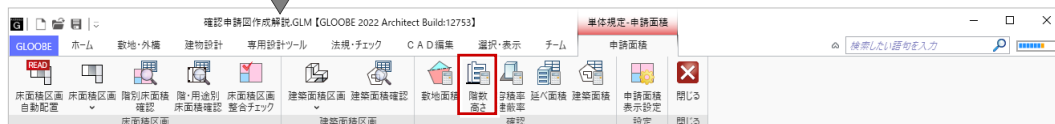
項目	値
算定基準レベル	-0.3200 m
平均地盤高	-0.4924 m

項目	値
平均地盤高	-0.49 m

3-2 階数・高さ確認

「申請面積」タブの「階数・高さ確認」では、昇降機塔などの塔屋部分を階数や高さに算入するかどうかを判定し、地盤高を考慮した建物の「最高の高さ」と「軒高」を確認できます。

ここで計算した「最高の高さ」と「軒高」で、断面図に寸法線が作図されます。



Default Group	
パントハウス階算入判定	
建築面積	限度面積
438.63 m ²	54.83 m ²
階名称 水平投影面積 (m ²) 階数・高さ計算	
PH1	49.00 不算入
階数	
通常階	パントハウス階 地上階
7	0 = 7
地下階	
0	
高さ	
最高の高さ	24342.4 mm
軒高	23292.4 mm
地盤面の高さ	
レベル基準: CAD高基準 ±	-492.4 mm
設計GL ±	-172.4 mm

【PH 階の水平投影面積が
建築面積の 1/8 以内の場合】

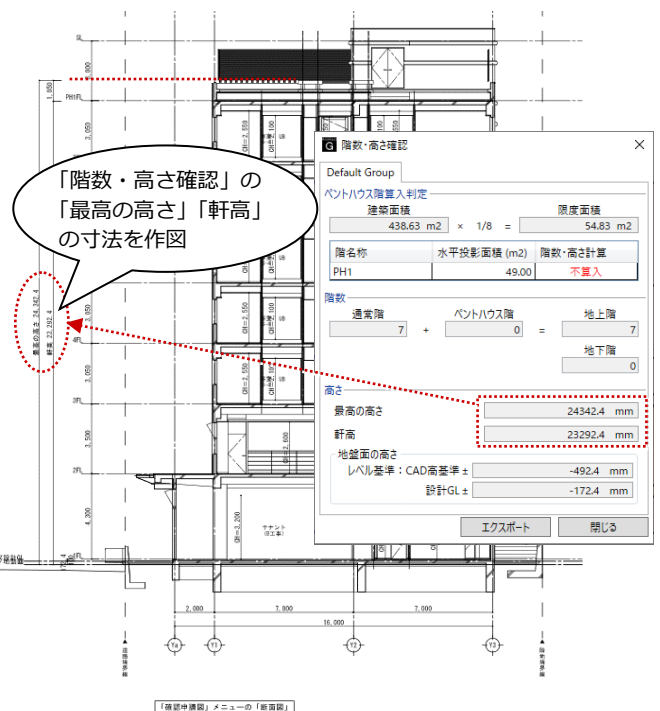
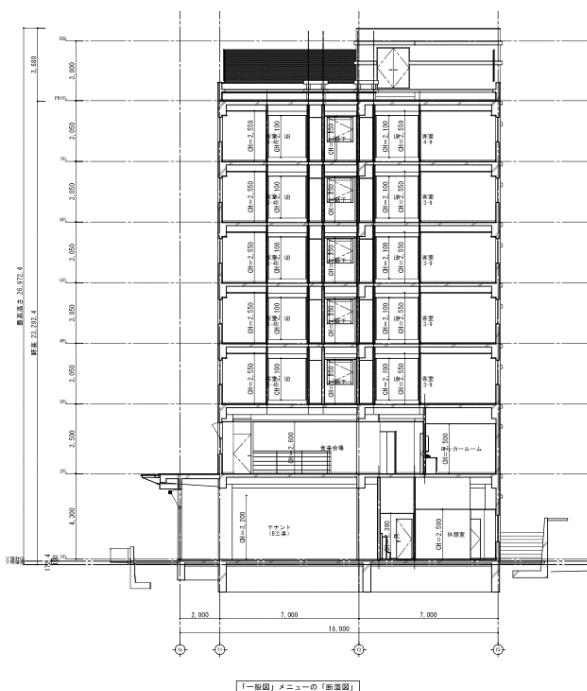
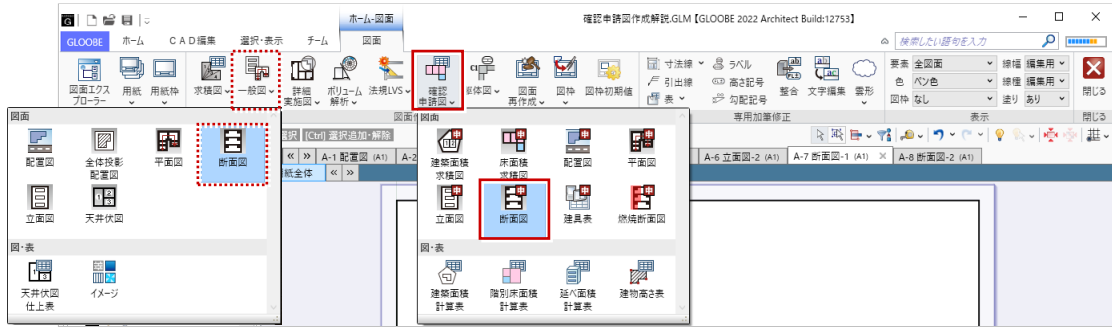
Default Group	
パントハウス階算入判定	
建築面積	限度面積
438.63 m ²	54.83 m ²
階名称 水平投影面積 (m ²) 階数・高さ計算	
PH1	73.50 算入
階数	
通常階	パントハウス階 地上階
7	1 = 8
地下階	
0	
高さ	
最高の高さ	26972.4 mm
軒高	26322.4 mm
地盤面の高さ	
レベル基準: CAD高基準 ±	-492.4 mm
設計GL ±	-172.4 mm

判定が「算入」
の場合はパント
ハウス階を加算

【PH 階の水平投影面積が
建築面積の 1/8 を超える場合】

3-3 断面図の配置

断面図の配置コマンドは「一般図」メニューにもありますが、「確認申請図」メニューの「断面図」を使用すると、寸法線の追出し基準は「地盤面」固定になり、「階数・高さ確認」で計算した「最高の高さ」と「軒高」の寸法線が作図されます。



※ 寸法は、GLOOBEの「オプション (CAD 環境)」にある「表記法設定」の「寸法」の「距離」の設定を参照して描画されます。